

事業名 (事業計画実施年度)	外国教育施設日本語指導教員派遣事業（REX プログラム） （平成13年度に事前評価（14年度継続事業評価）を実施）
主管課及び 関係課 (課長名)	（主管課）初等中等教育局国際教育課（課長：山脇 良雄）
施策目標及び 達成目標	施策目標2-1 基礎・基本を徹底し「生きる力」を育む学校教育の推進 施策目標9-1 様々な分野における国際協力の推進
事業の概要	海外における日本語学習熱を背景として、日本語教育の盛んな国からの協力要請に応え、我が国学校教育の国際化と、地域レベルでの国際交流を促進させるため、我が国の中・高等学校教員を海外の中等教育施設へ派遣し、日本語教育及び日本文化の普及に従事させる
予算総額及び 事業開始年度	平成17年度概算要求額：139百万円 （平成16年度予算額：145百万円） 事業開始年度：平成2年度
事前の評価に おいて得よう とした効果	我が国の学校教育の国際化及び地域レベルの国際交流を一層促進する 海外の中等教育レベルにおいて、日本語及び日本文化の普及を果たす。 派遣先における地域レベルの国際交流の促進 我が国学校教育の国際化の促進 地域における国際交流の促進 平成14、15年度においては、新たな派遣の要請に応え、当面、50名の派遣を達成目標として本事業の充実に取り組む。
検証 得られた効果 (波及効果を含む)	派遣教員からの報告書によれば、派遣校によっては担当している生徒のほとんどが日本語能力試験で1級を取得するなど日本語学習能力の向上、聴解教材の開発により日本人が会話で頻繁に使う表現などを自然に使える生徒が増え、日本語によるコミュニケーション能力の向上など一定の効果を得ているといえる。 さらに、学校において日本語学習に対する意欲を引き出すための教材としての日本文化の紹介や派遣教員が派遣先地域における日本語指導ボランティアや各種行事に参加することにより、生徒、地域住民の日本文化に対する興味・関心を高め、対日理解の向上にも資することとなっている。 派遣中において、派遣校と日本の学校間の交流を推進することにより、派遣先で日本語を勉強する外国の子どもたち、また、日本で英語を勉強する子どもたちという同世代同士の交流が学習意欲、異文化への関心を高める機会となっている。 また、帰国後も派遣校からの短期体験入学者受入れや派遣校主催の「高校生国際会議」への生徒の派遣など学校間の交流が継続されている。 さらに、新たな取組みとして海外の国際会議に生徒を派遣するだけではなく、帰国後の勤務校において海外の生徒を加えた国際会議を主催する計画も進められている。 教員の所属元からの帰国教員の活用状況等についての報告によれば、高校生交換留学促進事業の実施にあたり、受入れ校における学生のカウンセリング、担当教員サポート、保護者へのアドバイザーとしての活躍、生徒の海外研修を実施している学校での企画・運営、交換留学生制度を行なっているロータリークラブでの講演、派遣先での経験を生かした学校における国際交流活動・姉妹校交流など中心的な役割を担っており、国際理解教育の推進に寄与しているといえる。 校内の研修会等において、派遣先での様々な異文化体験を報告することにより、他の教職員の国際理解教育及び国際交流に関する視野を広げることにも貢献しているとともに、派遣先での経験に基づいた、言語教育、国際理解教育における教材開発等に寄与している。 派遣国で培った英語力や日本語を外国語として教えた経験を生かし、コミュニケーション能力の育成を目指した授業の展開、県総合教育センターの協力研究員として、ティームティーチングやオーラルコミュニケーションの指導法などの研究や文部科学省が実施するスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールにおける研究開発の推進において中心的な役割を果たすなど英語教育の推進に寄与している。 文化振興財団や県の機関において外国人招聘にかかる交渉や来日後の接遇、ホームステイの受入れ、県内の留学生に対するアドバイス、スピーチコンテストの審査員、自治体レベルで主催する国際交流事業での通訳など積極的に地域の国際化の促進に努めている。 (派遣先の勤務環境、国内における派遣教員の担当教科等により得られる効果は様々

	であり、成果を定量化することは容易ではなく、また、成果を得るためには、長期的な視点が不可欠であり、短期的に見える形で確認できるものではないことに留意する必要がある。)	
得ようとした効果と得られた効果との比較・検討	以上のとおり、海外における日本語・日本文化の普及ということにおいては、一定の成果が上がっており、事業の効果が表れていると考えられる。また、学校の国際化という点においても、学校間の交流、交換留学の促進などを通じ、成果が上がっている。 しかしながら、目標としていた派遣数50名を達成し、本事業の更なる充実を図るという面においては、派遣を希望する外国政府と地方公共団体との間に交流等の接点がないということにより、新たな派遣先を拡充することが出来なかったため、派遣数は38名に留まった。 これについては、REX プログラムの知名度が低いため、各都道府県教育委員会からの積極的な対応が得られなかったことが問題の要因となっていると考える。	
検証結果	一定の効果が上がっているが、想定した効果は得られなかった	
今後の政策への反映方針 (継続の適否、改善点を含む)	上記の評価結果を踏まえ、今後も事業を引き続き実施するべきと判断。評価から得られた課題に関しては、効果を得ている地域・学校等の具体的な実践例を広く紹介し、各都道府県教育委員会の積極的な参加を促すことにより、本事業の充実に取り組みたい。	
得ようとする効果	〔事業を継続する場合のみ記入〕 我が国の学校教育の国際化及び地域レベルの国際交流を一層促進する。 海外の中等教育レベルにおいて、日本語及び日本文化の普及を果たす。 派遣先における地域レベルの国際交流の促進 我が国学校教育の国際化の促進 地域における国際交流の促進 今回課題として得られた「外国政府と地方公共団体との間の交流の接点の拡充については、総務省及び地域の国際化を推進する団体等の協力を仰ぎ、地方公共団体への支援及び情報提供に取り組みたい。 また、国内の地方公共団体に対し、帰国教員の活用実践例及びその効果などの情報提供を行うなどしプログラムの知名度の向上を図るとともに、外務省等関係機関を通じ、海外の地方公共団体への広報活動に取り組みたい。	次の達成年度
		〔事業を継続する場合のみ記入〕 平成18年度

REXプログラム(外国教育施設日本語指導教員派遣事業)

今なぜREXプログラム

国際化の進展

海外における日本語学習者の急増と協力要請

国際化時代にフィットした教員養成の必要性

地域の国際化



地域国際交流事業の推進

ボランティア活動団体等との取り組みの融合



日本語の普及



日本語教育の充実

日本文化の紹介



推薦

国内の地方公共団体
中・高等学校の教員

文部科学省
派遣前研修の実施
派遣

派遣

外国の地方公共団体
派遣要請

地域間交流の推進

帰国

帰国教員を中心とした学校の国際化

日本語教育の充実

- ・外国人児童生徒に対する日本語指導法講習
- ・総合学習の中での日本語指導法の紹介
- ・勤務校での外国人生徒の日本語指導
- ・国語教育との連携 など

国際理解教育の推進

- ・交換留学の促進
- ・総合学習における国際理解教育(体験談などの発表)
- ・派遣校との交流活動
- ・勤務校以外での講演活動
- ・生徒の海外研修の企画・運営 など



外国語教育の充実

- ・外国語としての日本語指導の体験を活かした新しい英語教育法の提案
- ・英語教育における教材開発
- ・教員研修に対する助言
- ・外国語教育におけるカリキュラム及び評価法の開発 など